# 人気モデル莉奈二十三歳

## 第四巻　ハレンチな私服で炎上

海老沢　薫　著

# 内容

■著作権について
■まえがき
■第一章　母校への凱旋
■海老沢薫ＢＬＯＧ
■海老沢薫Ｗｅｂ連載小説
※海老沢薫ＢＬＯＧ
https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/
・・・「羞恥」「露出」「辱め」をテーマとした小説シリーズや、各種コンテンツ情報などを配信。

■著作権について

「人気モデル　莉奈二十三歳　第四巻　ハレンチな私服で炎上」（以下本書と表記する）の著作権は【海老沢薫】にあります。

・本書のすべての内容は、日本の著作権法、及び国際条約によって保護されています。

・「海老沢薫」が事前に書面をもって許可した場合を除き、本書の一部、または全部を、あらゆるデータ蓄積手段（印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー）により複製、流用、転載、転売することを固く禁じます。

・著作権の侵害につきましては、著作権法第119条などの罰則がありますのでご注意ください。

■まえがき

日本最大のファッションショーで生き恥を晒してしまった人気カリスマモデルの緒方莉奈。

幸いランウェイで見せた死ぬほど恥ずかしい痴態は、スタジアムにいた五万人の大観衆と、共にイベントに参加していたモデル仲間、それからイベント関係者達の間だけの秘密とされ、大衆のメディアに漏れることはなかった。

そのため、莉奈はこれまで通り人気モデルとしての地位を保持し、多忙な日々を送っていた。

そんな中、莉奈はずっと以前より恩師と約束していた母校の中学でサプライズ講演をするため、忙しいスケジュールの合間を縫って懐かしい中学校の校舎を訪れる。

女性マネージャーの山下と共に正門を通り抜け、かつての学び舎へと向かう莉奈の足取りは少し重かった。

なぜなら、数年ぶりに母校に凱旋した莉奈の服装はあまりに露出度の高い破廉恥極まりないもので、さらに、その秘部にはバイブまで埋め込まれていたからだ。

実は、莉奈は今日の日を迎えるにあたり、自らの恥ずかしい弱みを握る男達からまたしても脅され、事前に羞恥命令を受けていたのだった。

懐かしい想い出の詰まった校舎で、お世話になった恩師達との再会の時を迎えた莉奈は羞恥に顔を真っ赤に染め、身悶える。

そして、恩師達はかつて優等生だった莉奈の予想外の淫らな恰好に戸惑いつつも、なぜか意味深な笑みを浮かべるのだった。

全校生徒の前で講演する前に、応接室に招かれた莉奈は、そこで恩師達と懐かしい想い出話に華を咲かせた。

すると、突然莉奈の秘部に埋め込まれたバイブが動き出し・・・。

やがて、莉奈は羞恥と恐怖に脚元をガクガク震わせながら、ついに全校生徒の集まった講堂のステージへと歩み出て行くのだった。

■第一章　母校への凱旋

十代女子の神である人気モデルの緒方莉奈は、あの日からずっと憂鬱な日々を過ごしていた。日本最大のファッションショーのステージ上で華やかな衣装を纏ったモデル達が颯爽とランウェイを歩く中、トップモデルの莉奈は一人だけ全裸となり、他のモデル達に囲まれながら無理矢理オ○ニーまで披露させられ、五万人の大観衆の前でイキ果ててしまったのだった。

幸い、ファッションショーで起きた人気モデルの前代未聞の恥辱劇は、イベントに訪れていたファンの一部がSNSで投稿するだけに止まり、大手メディアやイベントスタッフ、ショーに参加していた他のモデル達が外部に向けて発信することはなかった。

それは、莉奈の弱みを握る関係者達が裏側で揉み消した事と、モデル仲間達が黙ってお

くことで逆にトップモデルの莉奈の弱みを自分達の手に握り、莉奈を奴隷として意のままに操ろうと考えたためであった。

そうして、莉奈は今まで通りカリスマモデルとしての人気を保持することができたのだが、あの時、ファッションショーが行われたスタジアムに集まった五万人の大観衆に、死ぬほど恥ずかしい痴態を目撃されてしまった事実が莉奈の記憶に深く突き刺さり、莉奈を苦しめ続けていた。もう人前になんて出たくない、モデルの仕事も辞めてしまいたい・・・。

莉奈はそこまで思い詰め、ティーンのカリスマとしての誇りさえ失いかけていたのだった。

しかし、莉奈がどれほどそんな風に思ってみても、莉奈の弱みを握る者達は、羞恥に悶え傷ついた人気モデルを決して許そうとはしなかった。ファッションショーの後にも、莉奈の元には男達から定期的にメールが届き、莉奈の痴態を捉えた動画と共に、羞恥の命令

が与えられた。さらに、あの日ファッションショーに参加していた他のモデル仲間達からもメールで脅迫されるようになり、彼女達はカリスマモデルの莉奈を自分達の奴隷としてすでに扱い始めていた。

そうして、ファッションショーから二週間が過ぎた頃だった。莉奈は女性マネージャーの山下が運転する車でとある場所へと向かっていた。

「莉奈、今日はどこのメディアも来ていないから、ありのままのアナタを見せるのよ」

マネージャーの山下は運転しながら、バックミラー越しに後部座席に座る莉奈に声を掛けた。

「はい・・・」

返事をする莉奈の声には覇気がなく、人気カリスマモデルのオーラはすっかり陰っていた。

そして、そんな莉奈の様子をバックミラー越しに眺めている四十代の女性マネージャーは、

なぜか意味深な笑みを浮かべるのだった。

ほどなくして莉奈を乗せた車は荘厳な趣のある建物の前に停車した。そこは、莉奈が昔通っていた中学校の校舎で、車から降りた莉奈は感慨深げな表情でその建物を眺めた。実に数年ぶりに訪れる懐かしい校舎の前に立った莉奈は、当時の想い出が急速に蘇ってきたのか、心の中を覆う憂鬱が僅かに祓われ少しだけ元気を取り戻すことができた。

「さぁ、行くわよ」

いつまでも想い出に浸っている莉奈に対してそう告げるとマネージャーの山下は冷たい口調でかった。

正門で手続きを済ませ、校内の敷地へ一歩入ると、莉奈の脳裏には中学時代の懐かしく輝いた記憶がさらに蘇り、校舎に近づくにつれて莉奈はここ最近に起きた数々の忌まわしい恥辱劇のことも忘れ、本当に久しぶりに何とも言えない幸せな気分に浸っていた。

しかし、校舎へ向かう途中、校庭に一瞬駆け抜けた風が莉奈を再び悪夢へと引き戻した。

今、懐かしき学び舎へと向かって歩いている莉奈の服装はあまりに破廉恥極まりないものだったのだ。上は胸元が大きく開いた白のキャミソールで胸元にはうっすらと乳首と乳輪が透けて見えていた。そして下は股下ギリギリのピンク色の超ミニスカートで、長くスラッと伸びた美脚が丸出しとなり、少しでも屈めば中が見えてしまう危うさがあった。さらに、超ミニスカートの中に穿いている下着はピンクのレース生地のTバックで、その奥には秘部にバイブが埋め込まれていたのだ。

校庭を駆け抜けた風が莉奈の下半身を撫でると超ミニスカートが僅かに捲れ上がり、莉奈は慌てて両手でスカートの裾を押さえた。

莉奈は数年ぶりに訪れた懐かしき想い出の場所にこんな場違いな恰好で来てしまったことを心から悔やむと同時に、自分が何とも情けなく惨めに思え、ドキドキしながら校舎の中

へと入っていった。

校舎の中に入ると、昔と変わらない懐かしい光景がそこには広がっていた。長く真っ直ぐに延びた廊下には各教室から授業を受けている生徒達の声が響いていた。莉奈の通っていた中学はミッション系の女子校だったため、校舎内は綺麗で整然としており、至る所に清々しい気品が漂っていた。

「緒方さん、久しぶりね」

莉奈が廊下を歩いていると、前方から呼び掛けてくる五十代の女性の姿があった。

「平岡先生・・・」

自分の方へ近づいてくる女性の顔を見た莉奈は思わずそうポツリと呟いた。

その女性は莉奈が中学三年生の時の担任で、とてもお世話になった恩師の平岡早苗であった。笑顔を浮かべながら莉奈の方に近づいてくる平岡は、莉奈と五メートルくらいの距離にまで近づくと、急にその表情を一変させた。まるで汚い物でも見るような冷たい眼差しで

かつての教え子を見つめ、さっきまでの笑顔はどこかに消え去ってしまっていた。

「平岡先生、ご無沙汰しております」

平岡の前にやって来た莉奈は、恩師が強張った表情で自分の服装を見つめているのが分かり、胸の奥からどうしようもなく羞恥心が込み上げてくるのを感じた。

「久しぶりね」

平岡は強張った表情のまま莉奈にそう挨拶すると、数年ぶりに再会した教え子の顔をろくに見ようともせず、莉奈の胸元を覆うキャミソールから透けた乳首や乳輪、超ミニスカートから露わになった美脚にばかり目を奪われていた。

あぁん、いやぁぁん・・・先生、そんなにジロジロ見ないでください・・・。莉奈は目の前に立つ恩師のギラギラした視線が胸元や股間に突き刺さるのを痛いほど感じ、心の中で悶えた。

「本日はどうぞ宜しくお願いします」

莉奈が羞恥に震えていると、隣に立つマネージャーの山下が平岡に対して丁重に挨拶をした。

「こちらこそ、どうぞ宜しくお願いします。生徒達もきっと今をときめく当校の卒業生の緒方さんに会えるのを喜ぶと思いますわ」

平岡はそう社交辞令を交わすと、再び意味深な表情で莉奈の体を眺めた。

莉奈は今日、自らの母校であるこの中学校で在校生達に対して講演をすることになっていたのだ。それは、今から数ヶ月前に恩師の平岡が後輩達の励みになればと直接莉奈に依頼したものであった。人気モデルとして多忙を極める莉奈はなかなかスケジュールの都合を付けることができなかったが、律儀な性格の莉奈は中学時代にお世話になった恩師の頼みを無碍にすることができず、事務所側に必死に頼み込んでどうにか今日の講演会の日を迎える事ができたのだった。

莉奈は母校での講演が決まった時からずっ

と今日の日を心待ちにし、後輩達の前で話す内容について考えていた。莉奈にとって中学時代は輝かしい想い出に溢れ、人気モデルとなった今でも心の片隅にはしっかりとそれらの想い出が大切な宝物として残っていた。だから、在校生の後輩達にも自分と同じように大切な宝物となるような想い出の数々を作って欲しいと訴えかけようと思っていた。

しかし、そんな莉奈の元にまたしても弱みを握られている男達から羞恥の命令がメールで送られてきたのだった。

『母校での講演会で生き恥を晒してもらう』

その一文で始まるメールには、莉奈が母校の講演会で演じなければならない恥辱劇の事細かな指示が記されてあった。こんなの酷過ぎるわ・・・。男達からの羞恥命令を読み終えた莉奈は、胸の奥から湧き上がる憤りと激しい羞恥の狭間で体を震わせた。

莉奈にとって大切な想い出の詰まった聖域とも呼べる場所にまで侵入してきた男達の邪

な欲望。五万人の大観衆の前で全裸オ○ニーを披露した時とは違った自らの心の奥にある大切な宝物を穢され壊されてしまいそうな恐怖が莉奈に襲い掛かった。

そうして、男達に逆らうことのできない莉奈は、悲しい覚悟を決めて今日数年ぶりに母校を訪れたのだった。今、身に纏っている破廉恥極まりない服装も、超ミニスカートの奥に穿いているパンティも、そして秘部に挿入しているバイブもすべて男達から渡され、母校に行く時に身に着けるよう指示されたものであったのだ。

■ 海老沢薫　ＢＬＯＧ

https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/

・・・「羞恥」「露出」「辱め」をテーマとした小説シリーズや、各種コンテンツ情報などを配信。

■ そのほかＳＮＳ

https://x.com/ebisawa_K

https://www.instagram.com/kaoru_ebisawa/

https://www.pixiv.net/users/70200870

■海老沢薫Ｗｅｂ連載小説

『清楚な美人妻　彩２７歳　絵画モデル編』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281

『清純派女優　結衣２４歳－国民のペットへと堕ちていくヒロイン－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802

『清純派女優　結衣２４歳－女神の憂鬱－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675

『女教師　玲奈25歳－女性教諭の前代未聞の不祥事－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186

『美人社長　里帆２６歳－若き女社長のプライドを砕く屈辱の契約－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885